

太平洋戦域

第2部

フェニキア帝国が日本の菊の御座を奪った経緯をまとめると

by レストレード

初出：2022年3月25日

イギリスには言論の自由はないが、とりあえず自分の意見を言うておく。



第二次世界大戦の太平洋戦争の公式シナリオを解き明かす前に、一旦立ち止まって、日本についての疑問を明らかにするのが妥当だと考えたのです。つまり、ウェーク島や硫黄島などのナンセンスを注意深く分析したものを読んで、「なるほどレストレード、この戦闘や捏造写真がいかに辻褄が合わないか、言いたいことはわかるが」と言う人がいると想像できるのです。しかし、日本が関与していたと言うのか？いい加減にしろ！”

日本は悪名高き鎖国国家で、難破して流れ着いた不運な人物を、交易や会話はおろか、文字通り何十年も斬首する政策をとっていたと指摘するのです。乗船するのは大変なことだ。

マイルズが神道の神官が紫色の服を着ているとか、日本人の中には鼻が大きい人がいるとか、象徴的な相関関係を示したことは知っているが、私にとっては、あなたの目を見て自信を持って言えるほど十分ではなかった。「そうだ、日本もグルになってゲームをしていたんだ」と。私はもっと具体的なものが欲しかったのです。

私の説では、日本人は第二次世界大戦前に欧米エリートによって「反転」させられ、彼らの支配下に置かれ、最高レベルで協力し合いながら統制のとれた行動をとることができるようになったのです。明らかに、大多数の日本人はこのことを知らず、メディア、教育、社会化によって、普通の日本国民であるように完全にプログラムされていたはず。これは、以下のことと何ら変わりはない。

この紛争に参加する平均的な米軍兵士は、命令に従い、国に対する自分の義務だと思ふことを行う普通の人です。その裏返しとして、日本の支配者たちをあるアジェンダに乗せることになるのです。日本のエリートは当初、権力と栄光、そして巨大な帝国（例えば中国領土の拡大）を約束されていたので、あるアジェンダに従ったのでしょう。

その後、彼らは一連の演出された戦いに敗れさせられたり（これは説明するのが面倒なので、別の論文で詳しく述べます）、完全にフィクションの出来事（例えば、Attu、広島、硫黄島）が実在したことに同意させられたりしたのです。日本のエリートはずっと安全で守られていたので、被害を受けたのは庶民だけでした。そして、アメリカ空軍による日本への大規模な焼夷弾の投下により、暴力は大規模にエスカレートし、戦争後期には日本が荒廃した。日本のエリートは降伏に同意し、ダグラス・マッカーサー元帥という「外人将軍」の就任に耐えなければならなくなった。

ここから...



...これに



さて、ではどうだったのだろうか。一番簡単な答えは、[戊辰戦争](#)（1868～1869年）である。

フェニキア人は段階的に、あるいは波状的に（より航海的に）それを行ったのです。最初の段階は、1634年から1854年まで、長崎**の[一つの港](#)を経由した最初の貿易でした。当初は、ポルトガル人が上陸して貿易ができるような、壁に囲まれた小さな港が一つあるだけで、非常に冷ややかなものでした。



出島の港の様子や、ポルトガルの商人たちが日本人に内緒で話しかけ、どんな情報でも、どんな知識でもこっそり手に入れようと頑張っている様子が伝わってきます。このステージはじわじわと効いてくる。

そして1853年、ペリー提督の[黒船によって](#)、より大規模な貿易が銃によって強要されることになる。これは、米軍の艦隊が蒸気機関を使って江戸湾に入り、日本政府が会わなければ発砲すると脅したことで、大きな波紋を呼びました。ペリーは将軍徳川家慶に書状（「1年後に艦隊を率いて戻ってくるから、それ以降は普通に取引しろ、さもなければ戦争だ」という公開脅迫状）を渡しています。

ウィキペディアの「黒船」の記事より。

「江戸湾に入った4隻の船が黒煙を上げながら自力で動く姿は、日本人を深く恐怖に陥れました。ペリーは、[対外貿易の公式港である長崎に移動する](#)という海岸からの要請を無視し、逆に、上陸を許されないなら、船で直接江戸に行き、江戸を焼き尽くすと脅した。結局、近くの久里浜に上陸することが決まり、書状を届けて出発した。

また

"ペリーの手紙は、鎖国政策についての長年の議論にもかかわらず、徳川幕府の最高レベルにおいて大きな論争を引き起こした。ペリーが去った数日後に徳川家慶が亡くなり、病弱な息子の徳川家定が後を継ぎ、実質的な政権は阿部正弘を中心とする老中が担うことになった。安倍は、アメリカの要求に武力で対抗することは不可能と考えながらも、この未曾有の事態に自らの権限で行動を起こすことを躊躇していた。しかし、このような未曾有の事態に対して、安倍は自らの権限で行動を起こすことを躊躇していた。そこで、安倍は決断を正当化するために、すべての大名に意見を求めた。これは、幕府の意思決定が世間で議論されることを許した初めてのケースであり、幕府の弱さ、優柔不断さを示す予期せぬ結果であった。世論調査の結果も、安倍首相は答えを出せなかった。判明している61の回答のうち、アメリカの要求を受け入れることに賛成したのは19、同じく反対したのは19であった。残りの回答は、戦争を懸念する曖昧な回答が14件、一時的な譲歩を提案する回答が7件、決められたことに従うとする回答が2件であった。

待てよ、将軍が死ぬってのは何だったんだ？

「1853年6月3日、アメリカのマシュー・ペリーが来航し、日本との通商条約を締結させた。家慶は条約締結前の1853年7月27日、熱中症による心不全のため死去し、三男の徳川家定が跡を継いだ。」

ペリーが将軍に西洋の軍事・貿易の要求に応じるよう圧力をかけているときに、日本の重要な意思決定者が死んでしまうとは、なんと都合のいいことでしょう。しかし、将軍は徳川家定に引き継がれたので、その息子がペリーに手を引くように言うかもしれないね。

「家定は、黒船来航のさなかに父・徳川家慶が急逝し、正室となった。すでに体調を崩していた家定は、アメリカとの交渉を阿部正弘に任せ、積極的に政治に関与することはなかった。1854年3月31日、神奈川条約が調印された。阿部は間もなく職を辞し、堀田正睦が老中首座に就いた。」

恥ずかしながら、なぜ家定はもっと頑張れなかったのでしょうか？

「家康の子どもはほとんどが幼くして亡くなり、家定は幼くして跡継ぎになったが、病気になるように人との交流は非常に制限された。脳性まひの可能性も指摘されている。また、幼少期に天然痘にかかり、顔に痘痕が残った。1841年に徳川家斉が死去すると、家定の後継者としての適性を懸念する声上がり、徳川慶喜が後継者候補として挙げられた。しかし、老中阿部正弘の強い反対で、家定が跡を継ぐことになった。」

ああ。彼は重い障害を抱えていた。支配者としては理想的な選択ではありませんね。阿部正弘が無能な将軍を維持するために議論し、神奈川条約を合意させ、その後すぐに辞任・引退したのは興味深い。おそらく見返りなのでしょう。翌年、ペリーが戻り、(日本の使節が会議の途中で死んだおかげで)彼の望むものを手に入れることができます。

「1854年2月11日、ペリーは8隻の軍艦を率いて再び来航し、条約が締結されるまで帰らないことを明らかにした。ペリーは、下級官僚から距離を置き、武力行使をほのめかし、港を測量し、指定された交渉場所での会談を拒否するなど、舞台裏を操り続けたのである。交渉は3月8日に始まり、約1ヶ月間行われた。ペリーが来航すると、各当事者はパフォーマンスを披露した。アメリカ側は技術の実演、日本側は相撲の実演。

を見せる。新しい技術は日本人を驚かせたが、ペリーは力士には感心せず、このようなパフォーマンスは愚かで卑劣なものと受け止めた。「この醜悪な展示会は、25人の力士が2人1組で次々とその巨大な力と野蛮な資質を発揮するまで終わらなかった」。日本側はペリーの要求をほとんどすべて受け入れましたが、例外として、アメリカの過去の中国との条約にならった商業協定があり、ペリーはこれを後日に延期することに同意しています。主な争点は開港する港の選定で、ペリーは断固として長崎を拒否しました。条約は英語、オランダ語、中国語、日本語で書かれ、1854年3月31日に現在の横浜開港広場で調印された。"現在の横浜歴史博物館に隣接する場所である。

日本にとって、状況は芳しくなかった。

次の段階は、事実上19th

世紀版のカラー革命である戊辰戦争で、西洋のエリートが内部の緊張を操作して、西洋と同盟しているが民族的には日本の小エリート、すなわち西洋の支援を受けた革命を支持した藩のトップランクから選ばれた元老を買収することになった。

[この記事にも](#)あるように

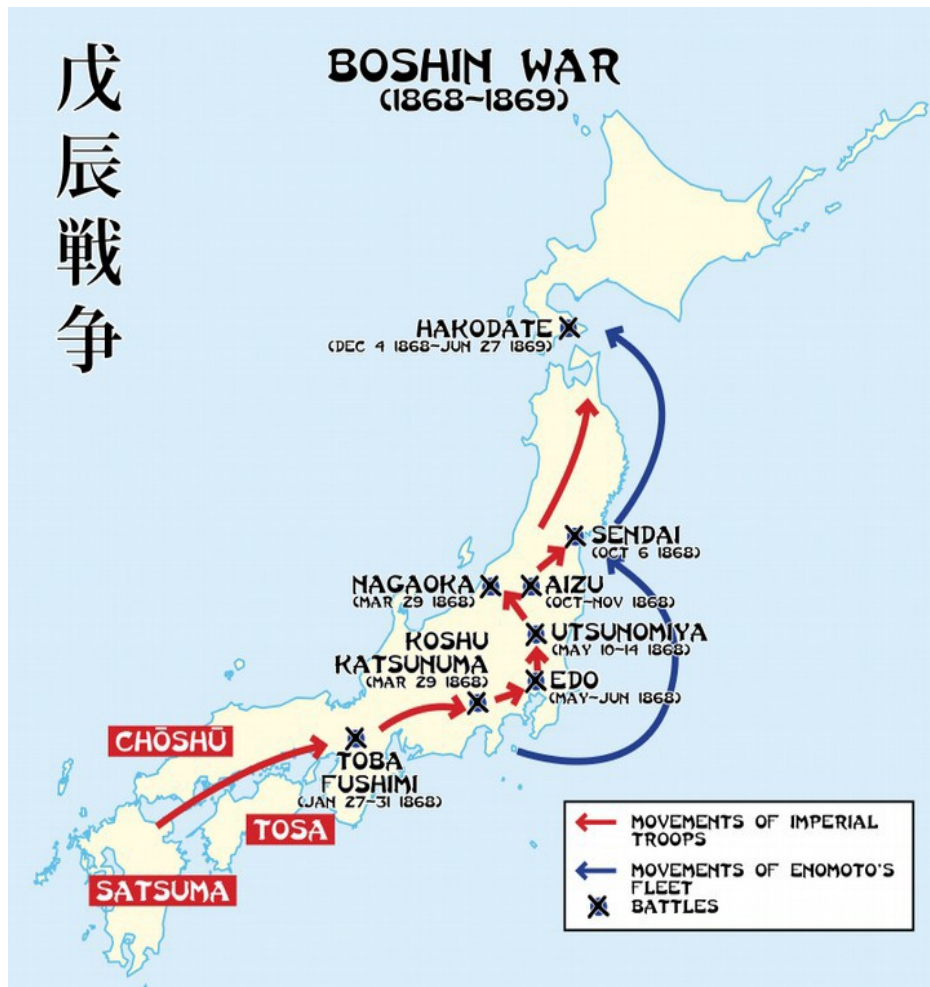
1850年代、欧米列強がその優れた軍事力を背景に、日本に通商関係を迫り始めたとき、分散化し、古くなった軍隊は、その進出を効果的に防御することができなかつたのです」。

1867年、徳川幕府が倒れ、明治天皇が復活し、国家が著しく成長した。事実上の政治・行政権力は、新体制の形成に尽力し、軍隊の近代化に尽力した若手武士たちに移った。その結果、ヨーロッパ型の近代的な軍隊への道が開かれた。

確かに、戊辰戦争や日本の内戦（1868-1869）を経て、明治天皇が就任するわけですからね。戊辰戦争の記事にはこうある。

「この戦争は、開国後の外国人に対する幕府の対応に対する多くの公家や若手武士の不満が発端となっている。経済面でも西洋の影響が強まり、当時のアジア諸国と同じように衰退していった。長州、薩摩、土佐などの西国武士と公家の連合が朝廷の実権を握り、若き日の明治天皇に影響を与える。現職の将軍である徳川慶喜は、その無益さを痛感し、天皇に政治的権力を放棄した。義宣は、こうすることで徳川家を存続させ、将来の政権に参画させることを望んでいた。」

ここで頭を悩ませるのは、日本を占領して明治天皇を据えた一派が、反欧米の影響を受け、日本人を正しく代表する真の天皇を据えるために戦っていると声高に宣言しているが、彼らは文字通りイギリス・アメリカから支持され、武器を与えられ、イギリス・アメリカから資金提供を受けた一派であるという逆転現象である。長州、薩摩、土佐はいずれも日本の南西部の出身である。



[こちらの記事](#)で紹介しています。

List of genrō [\[edit \]](#)

Name	Origin	Birth	Death
Inoue Kaoru	Chōshū	16 January 1836	1 September 1915
Itō Hirobumi	Chōshū	16 October 1841	26 October 1909
Katsura Tarō	Chōshū	4 January 1848	10 October 1913
Kuroda Kiyotaka	Satsuma	16 October 1840	23 August 1900
Matsukata Masayoshi	Satsuma	25 February 1835	2 July 1924
Ōyama Iwao	Satsuma	12 November 1842	10 December 1916
Saigō Tsugumichi	Satsuma	1 June 1843	18 July 1902
Saionji Kinmochi	Kuge	23 October 1849	24 November 1940
Yamagata Aritomo	Chōshū	14 June 1838	1 February 1922

ほらね。長州と薩摩の長老ばかり。彼らは西南日本の地方領主から、日本のエリート支配者になったのです。その富と権力を想像してみてください。

戊辰戦争の記事から、もう一つ選りすぐりの言葉を引用します。

「鹿児島への砲撃にもかかわらず、薩摩藩はイギリスと親密になり、その支援を受けて陸海軍の近代化を進めていた。スコットランドの商人トーマス・ブレイク・グラバーは、南方藩に大量の軍艦や大砲を売り込んだ。

アメリカやイギリスの軍事専門家（通常は元将校）は、この軍事的努力に直接関与していたと思われる。イギリス大使ハリー・スミス・パークスは、日本に正統な統一天皇制を確立し、幕府の影響力を持つフランスに対抗するために、反幕府勢力を支援した。この時期、薩摩の西郷隆盛、長州の伊藤博文、井上馨などの南方系の指導者は、イギリスの外交官、特にアーネスト・メイソン・サトウと人脈を深めていた。薩摩藩は海軍の近代化のためにイギリスの援助を受け、幕府に次ぐ西洋船の購入者となったが、そのほとんどすべてがイギリス製であった。戦後、薩摩藩士が帝国海軍を支配するようになると、海軍はたびたび英国に援助を求めた。”

薩摩がこれに乗ったというのもおかしな話です。最近、鹿児島への原爆投下のようなことがありましたので、それについては[こちら](#)で紹介しています。これは生麦事件と呼ばれるナンセンスな事件で、チャールズ・リチャードソンという商人が生麦近くの道で摂政とその従者の邪魔にならないようにしたために殺された（と言われている）ことに由来しているのです。

素晴らしい写真です。



とにかくこの件でイギリスと薩摩の間で発砲があったそうです。すべてきれいに沈静化し、読了した。

「しかし、薩摩はその後交渉して2万5000ポンドを支払った（幕府から借りたが、1869年に幕府が崩壊し、明治政府に取って代わられたため、返済されなかった）。リチャードソンを殺した犯人は結局見つからなかったが、それでも受け取った賠償金は、イギリスが薩摩に蒸気軍艦を供給する合意を得るのに十分だった。”

なぜなら、これは実際に行われていたことを隠すための煙とナンセンスだからだ。イギリスと薩摩の間で、最終的には将軍を倒すための力を蓄えるための交渉が行われていたのだ。

「この紛争が、実は薩摩とイギリスの密接な関係の出発点となり、その後の戊辰戦争で主要な同盟国となったのである。薩摩国はもともと開国・近代化には賛成だった。この事件で興味深いのは、10代の東郷平八郎が港を守るための大砲の一つを握っていたことで、後に日本海軍の首長となり「父」となるのはこの時のためだったと伝えられている。」

ほら、後の日本海軍のトップも、この深い事件に影響を受けているんですよ。この事件でイギリス人は何人死んだか？ **13人**です。

また、フランスも関与しています。[ここに](#)、1867年に初めて日本に派遣されたフランスの使節団に関する記事への[リンク](#)があります。基本的にフランス人は、日本軍を近代的な戦闘力に変えるために、日本人と連絡を取り合っていました（監督したのは、日本のスパイマスターである柴田竹中）。また、フランス側から戊辰戦争末期の蝦夷共和国（短命だったが）まで監督したジュール・ブリュネ（一例）についての[記事](#)も読んでみてください。イギリスとフランスが協力して、日本を太平洋に効果的に展開できる軍隊に改良したのです。もし彼らがそうしなければ、日本帝国が中国や太平洋地域へ侵攻することはなかったでしょう。フランスが支援する派閥とイギリスが支援する派閥のどちらが優勢になるかということだけが、ここでの真の問題でした。

日本の戦艦「富士」についての[このリンク](#)は、この戦艦がテムズ鉄工所を通じて英国人によって建造されたことを語っている。私たちはこう読みました。

"富士山

"の名を冠したこの船は、1894年の海軍計画の一環として発注され、1894年8月1日にロンドンのブラックウォールの造船所でテムズ・アイアン・ワークスが起工したものである。1896年3月31日に進水し、1897年8月17日に竣工した。日本からは、後に首相となる斎藤實や加藤友三郎を含む240人以上の技術者や海軍士官が参加し、工事を監督した。ポートランドでの艤装中、1897年6月26日にスピットヘッドで行われたヴィクトリア女王のダイヤモンド・ジュビリーを記念した艦隊閲兵式に参加した後、スエズ運河経由で日本に向けて出発した。"

この引用は、イギリスが文字通り日本艦隊を建造しているという話だけでなく、将来選ばれる予定の首相がそこにいることがわかるからです。もちろん海軍士官としてです。もしイギリス海軍が日本海軍をゼロから作っているのなら、イギリス海軍情報部のスパイとして適切な人材を育成する機会があったかもしれないと思いませんか？もちろん日本陸軍も同じです。トップの将軍/提督は西側の体制に忠実であってもいいのです。

[日清戦争については](#)、日本にはまともな海軍がなく、西洋がゼロから作ったと認めている（「戦闘員の地位-日本」の項）。

「日本海軍は、当時、海軍の最高峰であったイギリス海軍を手本にした。日本海軍は、当時最高の海軍力を誇っていたイギリス海軍に倣い、イギリスの顧問を日本に派遣して海軍の訓練を受けさせ、日本の学生をイギリスに派遣してイギリス海軍を研究・視察させた。イギリス海軍の教官による訓練と指導により、日本は砲術と水兵術に長けた海軍士官を育成していったのである。

と。

"日本の主要な軍艦の多くは英仏の造船所で建造され（英8、仏3、日2）、魚雷艇の16隻はフランスで建造され、日本で組み立てられたことが分かっている。"

と。

「明治政府は当初、フランス陸軍を手本にした。明治政府はまずフランス軍を手本にした。フランスの顧問団は、幕府の使節団に加え、2回（1872～80年および1884年）日本に派遣されていた。1873年には全国的な徴兵制が実施され、西洋式の徴兵制が確立され、軍事学校や兵器庫も建設された。1886年、日本は陸軍の基礎としてドイツ・プロイセン様式を重視し、ドイツの教義とドイツの軍制・組織を取り入れた。1885年、ドイツ人顧問のクレメンス・メッケルは、師団・連隊への指揮系統の再編、陸軍の兵站・輸送・構造の強化（これによる機動性の向上）、砲兵連隊・工兵連隊の独立司令部化などの新しい方策を実施した。また、あらゆる面でヨーロッパ軍に匹敵する軍隊となった。"

日本軍は、欧米列強が日本に来て訓練し、設計図やシステムを見せ、何をすべきかを具体的に教えることで、文字通りゼロから作られたのです。これは自然に起こったことではなく、完全に人為的に行われたことなのです。

もし宇宙人が平壤に降り立ち、SF的なレーザー兵器とエネルギーシールドを与えたとしたらどうだろう。すると、北朝鮮は帝国建設を始める。技術のアップグレードのため、完全に予測可能なことだろう。

とにかく、薩摩や長州や土佐が乗っ取ろうと画策している間に、孝明天皇が亡くなってしまうわけです。

「1867年1月、孝明天皇は天然痘と診断されたが、それまで病気知らずだったというから驚きだ。1867年1月30日、彼は激しい嘔吐と下痢に襲われ、顔に紫色の斑点ができ、致命的となった。孝明天皇の死は、孝明が一貫して反対してきた反幕府勢力にとって、明らかに好都合なものであった。当時は、長州の過激派か、宮中の過激派が暗殺したのではと噂された。イギリスの外交官アーネスト・サトウは、「（孝明天皇が）15歳か16歳の少年（実際は14歳）を後継者として政治の舞台から姿を消したことは、最も好都合であったことを否定することはできない」と書いている。

だから毒を盛ったんだ、明らかに。タイミングが良すぎるし、顔の紫斑は特に天然痘の症状ではない。

[この](#)記事にはこう書かれています。

"数日後、顔、手、腕、そして最終的には体幹に、平らな赤いただれや斑点が現れ始めます。数日のうちに、ただれの多くは、液体を含んだ小さな水ぶくれに変わり始めます。この液体は、その後、膿に変わります。時間が経つと、ただれはかさぶたになって剥がれ落ち、深く穴のあいた傷跡が残ります。"

[この](#)記事にはこう書かれています。

「出血性疾患（血友病、血小板減少症など）は、さまざまな原因で皮膚に血痕ができることがあります。また、特定の癌（多発性骨髄腫、白血病など）、血液凝固に影響を与える病気（ループス、肝硬変など）により発生することもあります。

私は、新しい天皇である明治天皇への道を開くために、公明党を毒殺したと考えています。明治維新とは、真の日本の天皇を即位させることであり、ヨーロッパ人が日本人に押し付けた気まぐれな公明・徳川政権とは無縁のものだったのです。マイルズ：もう一つの可能性は、単に彼を移しただけで、シミや毒素についてこの話をでっちあげたということです。私たちが何度も見てきたように、彼らは人を殺す必要はありませんし、普通は殺しません。彼らは実際、殺さないことを望んでいるのです。

私たちは学びます。

「日本の上流階級の歴史では、理想的な血統や王家の血統を守るために、近親婚がよく行われてきた。しかし、これは思わぬ結果をもたらした。しかし、これは思わぬ結果を招いた。明治は自分でも知らなかったが、近親交配の結果、遺伝性の病気にかかってしまったのだ。下顎前突症や背骨の変形など、明治の子供にも見られる遺伝性疾患である。

先天性疾患以外にも、栄養失調による脚気、特にチアミン（ビタミンB1）の欠乏が明治を苦しめた。皇室は宗教上の理由から、一般庶民より貧しい食生活を送っていた。脚気のため、歩くのもやっとだった。

彼は妾との間に15人の子供をもうけた。そのうち10人は夭折した。嘉仁親王（後の齊明天皇）は、唯一成人した男子皇嗣であったが、心身ともに弱く、髄膜炎、糖尿病、脳血栓症、精神疾患などを患った。”

何千年もの間、孤立していたとされる王室の日本人が、西洋のフェニキア人の従兄弟たちと同じように、ハプスブルグの顎を含む問題を抱えていたことは興味深い。

公明が叩かれたせいで、文字通りの近親相姦の14歳が菊花賞の座についたわけですね。ありえないでしょ？天皇はもちろん日本人の最終的な指導者だが、伝統やモデルは天皇が精神的な指導者であり、日常的な国の運営は将軍に任されていたのである。もちろん、今は将軍を排除し、西洋式の政府を持ち、合意によって物事を動かしていますが、これから見るように、実際の権力は小さな寡頭政治の手にあります。



この写真にはキャプションがついています。「戊辰戦争終結時の10代の明治天皇と外国人代表者。

この状況で、誰が力を持っていると思いますか？中央にいるのはティーンエイジャーではありません。



この写真にはキャプションがついています。「後世の明治天皇明治天皇は晩年、大きな顎鬚を生やしており、その姿はよく知られている。遺伝的疾患による下顎骨突出という顔の欠陥をカバーするためである。」

マイルズこの写真も偽物で、かなり塗り替えられています。顔の奥が黒い影で、黒いジャケットの奥がグレーの影になっているのはなぜでしょう？そしてもちろん、彼は髭がなくても、日本人としては極めて長い顔をしています。

[読み進めていきました。](#)

「革命に成功した人々は、国家評議会を組織し、その後、3人の主要な大臣が政府を率いる体制になった。この体制は、1885年に西洋式の内閣を率いる総理大臣が誕生するまで続いた。革命家の後藤象二郎は、「過激派がさらに進んでミカドを廃止するかもしれないと恐れていた」と述べている。新しい指導者は、大名が統治するつぎはぎだらけの藩政を改革しようとした。1869年、革命を支持した大名の何人かは、その土地財産を天皇に譲り、かなりの俸給をもらって家督に再任されることになった。翌年には、他のすべての大名がそれに続いた。」

翻訳すると、戦争に勝って役人や知事に金を貢いだということだ。多くの老物たちは、単に政治から引退するだけだ。

「1871年、日本が72の都道府県に編成されたとき、天皇は藩の全廃を宣言した。大名の年俸は、俸禄の10パーセントに相当する。

しかし、その一方で、東京に移住することが義務づけられた。ほとんどの大名が政界から引退した。"

もちろん、武士階級はどうにかしなければならない。

「新政権は、武士の禄高をはじめ、ほとんどの特権を徐々に廃止していった。しかし、大名とは異なり、多くの武士はこの変化によって経済的な苦しみを味わうことになった。その他にも、ほとんどの階級的な区別が廃止された。被差別部落に対する合法的な差別もなくなった。しかし、これらの階級は現在でも日本では差別を受け続けている。

[読みます。](#)

「当時の武士の数は日本全国で190万人。これは1789年のフランス革命前のフランスの特権階級の10倍以上の規模である。しかも、日本の武士は大名だけでなく、その上位の家来、つまり実際に働く人たちであった。しかも、武士は大名だけでなく、その上位家来、つまり実際に働いている人たちである。武士には一定の給料が支払われ、その維持は大変な財政負担であり、それが寡頭制を促したのだろう。

その真意はともかく、寡頭政治家はまたもやじつくりと武士階級の廃絶に乗り出した。まず、1873年、武士の俸給に累進課税することが発表された。その後、1874年には、俸給を国債に換えることができるようになった。そして、1876年（明治9年）には、この俸給の国債への転換が義務づけられた。

明治6年（1873）、政府は軍隊を改革するために全国的な徴兵制を導入し、すべての男子は21歳になったら4年間軍隊に所属し、その後3年間予備役として働くことを義務づけたのである。武士と農民の違いは、武器を持つ権利であった。この古くからの特権が、突然、すべての男子に拡大されたのである。さらに、武士は身分を示すために刀や武器を身につけて町を歩くことは許されなくなった。

そのため、不満を抱いた武士たちによる暴動が相次いだ。大きな暴動のひとつが、西郷隆盛を中心とした薩摩の乱で、やがて内戦に発展していく。しかし、この乱は、旧士族を中心とした東京府警を中心に、西洋の戦術と武器を身につけた新日本陸軍によって、速やかに鎮圧された。これは、反対する武士たちに「もう自分たちの時代は終わった」という強いメッセージとなった。その後、武士の反乱は少なくなり、武士が新しい社会に参加することで、その区別は名ばかりになった。武士道精神の理想は、ロマンチックな形で生き続け、20世紀初頭の大日本帝国の戦争では、しばしばプロパガンダとして使われた。"

つまり、元老は日本の伝統的な社会のこれらの主要な側面を解体しているのだ（ところで、私は侍を持つことが必ずしも良いことだとは言っていない。元老が伝統主義者ではなかったことを指摘しているのだ）。

新体制（傀儡天皇と偽政府）が寡頭政治国家・元老の隠れ蓑であった[ことを認めている](#)のです。

「1889年に制定された憲法では、新しい議会が創設されましたが、実権はありませんでした。権力は徳川から、維新を主導した大名や武士たちの手に移った。日本は元老によって支配されていた。元老とは、軍事、政治、経済の各分野で最も有力な人物からなる寡頭制のことである。"

元老と寡頭政治については、こちらと[こちら](#)で詳しく解説し

ています。最後に明治の記事にはこうある。

「明治維新とそれに伴う工業化によって、日本は一代で太平洋の覇者となり、世界の主要なプレーヤーとなったことを日本人は誇りにしている。しかし、明治天皇が維新に果たした役割や、在位中に彼が行使した個人的な権限や影響力については、いまだに議論の余地がある。明治天皇は日記をつけず、手紙もほとんど書かず、写真も「3、4枚」しか残していない。また、父と違って日記も書かず、手紙もほとんどなく、写真も「3、4枚」しか残していない。また、彼に会った人や親しかった人の話には、たいいてい実質的な情報がほとんどなく、互いに矛盾している。」

皇居の牢屋に入れられ

喋りまくってるからな何もできないどころか、身動きも服装もほとんどできない。彼は凶星なんだ

"明治天皇、糖尿病、腎炎、胃腸炎を患い、尿毒症で崩御。公式発表では1912年7月30日00:42に死亡とされているが、実際の死亡時刻は7月29日22:40であった。"

日本の皇族の汚れた血に着目して時代を少し先に進めると、明治の生き残りの一人、嘉仁親王（後の[大正天皇](#)）がいる。

「明治天皇の妃である昭憲皇太后は、当時の慣例により、正式には明治天皇の母親とされた。1879年9月6日、天皇から新納義人という名と春の宮という称号を授かった。二人の兄姉は幼くして亡くなっており、彼もまた病弱であった。



嘉仁親王は生後3週間で脳髄膜炎にかかった。(また、看護婦が使った鉛の化粧品による鉛中毒という噂もある) "

だから、もう一人の立派な姿は、支配する準備ができています。そして、もう一人のユダヤ人らしい長い顔。フェニキア人は、この人たちにユダヤ人の妻を供給していたのでしょ

「1885年3月、嘉仁親王は青山離宮に移り、午前中は読み書き、算術、道徳、午後にはスポーツの個人指導を受けたが、体調が悪く、しばしば発熱したため、進歩は遅々として進まなかったという。」

私たちは学びます。

「1912年7月30日、父である明治天皇の死去に伴い、嘉仁親王が即位した。新天皇は、さまざまな神経症を患っていたため、できるだけ国民の目に触れないようにされていた。1913年の帝国議会の開会式では、用意したスピーチを筒状に丸めて、まるで覗き眼鏡をかけるように議会を見つめたという話は有名である。」

もっとたくさんありますが、要は、彼はほとんど話すことも考えることもできないのです。それも長くは続かない。

"1926年12月初旬、天皇が肺炎にかかったことが発表された。1926年12月25日早朝1時25分、東京の南、相模湾に面した葉山御用邸（神奈川県）で心臓発作のため死去された。47歳であった。"



これは1917年の彼の写真と思われる。特に手前の二人がかぶっている軍帽を見ると、漫画のように輪郭が描かれているようで、何か違和感がある。Milesがこの写真を解明してくれるでしょう。メダル以外は問題なさそうだ。彼はメダルを獲得することができなかったのでしょうか？

これは大正義ガーター勲章に扮したもので、通常、イギリス国王への個人的な奉仕に対して与えられる階級・賞である。というわけで。



この顔は、この前の写真と同じ頭の部分を貼り直したもので、髪を少しいじっただけだと思うんです。



うん。だから変なんです。そう、頭を貼り付けたんだ。ガーター勲章はスタンレー家のものだから、スタンレーの手先だと認めているわけだ。

とにかく、大正天皇とその妾（スタンレー？）の結婚から、裕仁親王（後の昭和天皇）を含む数人の子供が生まれる。



日本の国旗を手にした赤ちゃんの頃です。ただし、これは明らかに貼り絵です。



元老は、裕仁が十分な年齢になってから、西域に送り出し、命令を受けさせた。

「1921年3月3日から9月3日まで、皇太子はイギリス、フランス、オランダ、ベルギー、イタリア、バチカン市国を公式訪問された。これは、皇太子にとって初めての西欧訪問であった。日本国内の強い反対にもかかわらず、山県有朋、西園寺公望ら日本の長老政治家たちの努力によって実現した。

裕仁親王のご出発は、新聞でも大きく報道された。日本の戦艦香取が使われ、横浜を出港し、那覇、香港、シンガポール、コロンボ、スエズ、カイロ、ジブラルタルと航海した。2ヵ月後の5月9日にポーツマスに到着し、同じ日に

その日、彼らはイギリスの首都ロンドンに到着した。英国では日英同盟のパートナーとして歓迎され、国王ジョージ5世、首相デービッド・ロイド・ジョージと会見した。その夜、バッキンガム宮殿で宴会が開かれ、ジョージ5世やコンノート公アーサーと面会した。"

想像できますよね？葉巻に大きなダイニングテーブル、豪華な料理と銀食器。執事とシャンドリア。高級スーツを着た男たちが「心配するな、自分たちのことは自分たちでやるから、あとは遊んでろ」みたいなことを言っている.....等々。

「帰国した裕仁は、1921年11月25日、精神を病んだ父に代わって摂政に就任した。1923年には陸軍中佐、海軍中佐に、1925年には陸軍大佐、海軍大尉に昇進した。"

父親は生まれたときから精神疾患と身体障害に悩まされていたのだが、何が変わったのだろうか。何もない。ちょうど今、ゲンロは新しい頭領を予定に組み込んでいるところだった。

日本の内戦の終わりに戻って、[フランスの日本への軍事「ミッション」](#) (2回目) [についてこのリンクをたどると](#)、戊辰戦争で徳川派が敗北してフランス側が「負けた」にもかかわらず、フランスが戻って日本の軍事力を開発・向上させ続けていることがわかります。

[この記事](#)を読んで、私たちは次のことを学びました。

"憲政の初期に、明治憲法の長所と短所が明らかになった。薩摩と長州の少数精鋭が日本を支配し続け、元老という憲法外の組織として制度化された。元老は天皇の意思を汲み取り、天皇ではなく元老が政治をコントロールした。しかし、この間、政治問題は妥協によって解決されることが多く、政党は次第に政府に対する力を増し、その結果、政治プロセスにおいてより大きな役割を果たすようになった。

革命家の叫びは文字通り「攘夷」だった。しかし、戊辰戦争の全容は（少なくとも一般大衆には）、徳川が西洋人にあまりにも甘く、必要なのは西洋人を追い出す強力な日本国政である、という[もの](#)だった、と[読める](#)。

「1868年の明治維新で中央集権体制を確立した日本は、「世界から知恵を集めよう」と軍事、社会、政治、経済の改革に乗り出し、一代で近代国民国家、世界の大国へと変貌を遂げました。"

と。

"明治の寡頭政治は西洋の進歩を意識しており、それを少しでも吸収するために「学習使節団」を海外に派遣した。岩倉使節団は、岩倉具視、木戸孝允、大久保利通を団長とし、総勢48名で2年間 (1871-73)、欧米を回り、政府機関、裁判所、刑務所、学校、輸出入業、工場、造船、ガラス工場、鉱山など、近代国家のあらゆる側面を研究し、最も重要な使節団であった。帰国後、使節団のメンバーは、日本が欧米に追いつくための国内改革を訴えた。"

だから、欧米に対する反発はなかった。彼らは、私たちのシステムをそっくり真似して、学んで行ったのです。黒船時代以前の鎖国には戻れない。外来の要素を拒絶することもない。彼らは今、「欧米人に追いつき、もっと似る必要がある」と言っているのです

元老は西洋列強と協力して、その後50年間、日本で物事を動かし、その後（私の読みでは）「東条が環太平洋に侵攻する」という、彼らが失敗するように仕組まれたことをやるように勧められるのです。日本のエリートは保護され、金をもらっている。天皇は初日から凶星のような存在で、戦犯として裁かれることもなく、保護されている。上級の軍事指導者は保護され（例：前掲の論文にあるように山本長官）、平和に引退できるように偽の死を与えられている。そして戦後、日本は欧米の金を浴びることになる。原爆投下の罪悪感からだと言われている。

農民だけが、大量の焼夷弾で苦しむ。買収の最終段階は1945年の降伏後で、ダグラス・マッカーサー元帥（ブルース・ウィリス演じる）が白馬の將軍（天皇に代わる軍事独裁者／物理的支配者）として日本全国をあからさまに牛耳るようになる。



したがって、日本は1800年代初頭には東アジアの孤立した独立国であったのが、1945年にはアメリカの直接の植民地となったのである。当然の結論として、日本はアメリカ政府（というよりフェニキア帝国）によって運営される植民地となり、今日に至っているのである。

もしこれを読んでいる日本人がいたら、1945年以降、植民地支配が、偽りの選挙と同じ元老/財閥に関係する現代の政治家による「民主主義」を装って維持されていることについて、より具体的な知識を与えてくれることだろうと思う。そしてフェニキア人に。

さて、処理することがたくさんありましたねここで明らかにしておきたいのは、西洋が資金を提供し、訓練し、組織した革命が、日本の伝統的な権力基盤を転覆させ、元老という寡頭制を据えたということです。これは、フェニキア帝国が、どのようにして

菊の御座。今後の論文で、日本帝国について考えるとき、これが日本人を巻き込んだ統制のとれた「世界大戦」を起こすための基礎になることを理解してください。

マイルズレストレードのもう一つの素晴らしい論文です。しかし、焼夷弾による爆撃が事実であったという仮定において、彼が結論を急ぎすぎではないかと思わざるを得ません。私の直感では、焼夷弾は核爆弾と同じように偽物だと思います。レストレードが見せてくれたものを考えると、ほとんど偽物の戦争を売り込むために、何百万人もの日本人を冷酷に殺害するとはとても思えません。核兵器による空襲を偽装できるのなら、大火災も偽装できるはずです。私たちが知っているように、彼らは何でも偽造することができるのです。私の推測では、イギリスやドイツ、ポーランドへの爆撃で見られたように、再建が必要な大規模なスラム街を整地し、そこを焼夷弾で焼き払い、それを撮影して、実際よりもはるかに広範囲で致命的なものとして売ったのではないだろうか。そうすることで、後から入ってきた人たちが再建し、地域全体を高級化することができたのです。あとは、ドレスデンの論文で見たように、写真を捏造して済ませたのです。

何度も言うようですが、私たちのデフォルトの前提は、「現実には何もない」ということです。かつては、歴史家に疑いの余地を与えていました。有罪が証明されるまでは無実であり、そうでないことが証明されるまでは、出来事は現実であったのです。しかし、もはやそれはルールではありません。私たちは今、歴史家たちがあまりにも多くの嘘をつき、真実をほとんど語っていないことを知り、彼らが嘘をついているのだと考えるようになったのです。私は、研究し、自分自身で証明するまでは、何事も本物でないと思っています。東京大空襲についてはそうしていませんし、レストレードもここで取り上げていません。それは将来、私たちのどちらかの論文になると思います。私はただ、私がどう考えているかを話しているのです。そして、なぜ私がそう言うのか、おわかりいただけると幸いです。

*

A軍がある領土に攻め込んだら、当然、原住民は彼らに敵対する、という心理でしょう。数年後、B軍がやってきて彼らを「解放」（しかし実際は自分たちが乗っ取られる）すると、B軍は悪の占領者から地元民を救ったという良いPRになり、すぐに利益を得ることができます。

**日本が乗っ取られるサイクルが、長崎に始まり、長崎に終わるといいですね。西洋人のための最初の港から、日本を崩壊させ降伏に導いた原爆投下（というか焼夷弾投下）まで。なかなかオツなものでしょう。あるいは、黒船来航と東京湾での降伏の間をループするのもいい。いずれにせよ。